

# くどう市長と語ろう！ 第5回ふれあいトーク



日 時 平成24年8月18日(土) 13:30~

場 所 上勇知町内会館(上勇知)

## 《第5回ふれあいトーク 開催結果》

●参加者数 19名

(男女別) 男性14名 女性5名

### 【参加者からの意見】

1. 特別養護老人ホームについて
2. 市立稚内病院と医療受け入れの態勢について
3. 計画停電について
4. 震災瓦礫について
5. 少子化問題と雇用対策について
6. 新規就農について
7. こうほねの家周辺の海岸侵食の状況について
8. JR 勇知駅について
9. 防災について

## 1. 特別養護老人ホームについて

### ◆参加者からの意見等

- 稚内市内の特別養護老人ホームに入所できるようにしていただき、そうした業界を充実させることで雇用なども創出できるのではないかと。
- 廃校を利用した老人ホームへの建て替えなどは検討できないものか。
- ベッド数が増えると介護保険料が上がるが、上げない方法は無いのか。
- 老人ホームなど社会福祉は、何でも民営化すればよい訳ではなく、どこかで行政が掴んでおくべきだと思う。また、利用者としては1円でも安い方へ入りたがっている。
- グループホームや特別養護老人ホームなど、いきなり施設に入るようになる前に、段階を踏んでいくようなシステムを作った方が利用者としては使い易い。
- 地域包括支援センターという名称は分かり難い。
- JRもあるこの勇知地区に若い人も一緒に住めるグループホーム的なものがあったらいいと思う。いざ誰かがこの地区に住もうと思っても、それだけの建物が無い。

### ◆市長の発言

- ベッド数の増加についてはしっかりと取り組むつもりであり、平成26年度に40床増やすことが具体化しているが、一方で介護保険料に跳ね返ることも理解して頂きたい。
- 介護現場の雇用問題は、実際は資格を持つ人の取り合いみたいのが生じており、雇用全体が広がるという必ずしもそうでは無い状況である。
- 学校の転用については必要なことだと思うが、建物としての構造が今の老人ホーム等に向いているかどうか疑問がある。
- 介護保険料の値上げは制度そのもの（かかる費用の21%は65歳以上の方の介護保険料を充てるというルール）なので、今回は40床整備したことにより月額270円上がるという事を説明して進めている。痛しかゆしの話だが、ご理解いただきたい。
- 特別養護老人ホームは介護度で料金が決まる。基本的に居住費と食事費は施設毎に違うのでその部分は所得に応じて差が出る。介護保険のサービス料(1割負担)は変わらず、そうしたところも明らかにするべきだと考えている。
- どんな人がどの施設に入るのか、空きの有無についても、もう少し行政側から今の介護保険法に基づく中で情報発信していく必要はあると考える。
- 包括支援センターの名称は、法律上の課題もあると思うが、別名をつける方法もある訳で、言っていることは理解できる。
- 勇知地区にグループホームをという話は、定住促進や過疎対策、世代間交流も含んだ課題であるが、現在市では具体的にこの問題に手を付けていることは無い。勇知地区の独特な地域づくりについては良く知っているし、これからも参考にさせていただきたい。

■ 検討状況など【担当 … 生活福祉部・介護高齢課】

- 近年、市内でも様々な施設が整備されている中で各施設における入居条件や費用の目安など、高齢者の皆さんに広く理解していただけるよう周知に努めます。また、介護の人材を育成する一つの取り組みとして教育学習などを通じて介護への認識を高めていく取り組みを検討していきます。
- 介護サービスの需要に応じて多様な施設整備を進めていくと、確実に介護保険料に影響が出ることから、今後においても、高齢者人口の推移や施設の待機状況、介護保険料への影響などを総合的に判断し、計画的な施設整備を目指していきます。
- 地域包括支援センターの名称は、市民への認知がされてきており、名称変更の予定はしておりません。
- グループホームについては、事業者が開設するものであり、地理的条件、交通事情、人材確保等の理由から、なかなか地域のみなさんのご希望どおりになっていない現状があります。市としては、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で、生きがいをもって暮らし続けることができるように、地域に高齢者の集える場をつくり、世代を超えた「ふれあい」や「つながり」を通じて社会全体で高齢者を支えるまちづくりを進めることが必要だと考えており、その取り組みの一つとして、本年度、沼川地区で地域の事情にあった“高齢者の集いの場”をモデル事業として開催する予定です。今後、この取り組みを検証して他の地域でも展開していきたいと考えております。

## 2. 市立稚内病院と医療受け入れの態勢について

### ◆参加者からの意見等

- 循環器の医者を是非非常駐させていただきたい。
- 医者への患者に対する対応が悪い。中堅クラスの医者が若手を教育するような体制がとれればよい。
- 稚内に医者を向かわせるような努力をしているのか。また医者を目指す子供たちを応援する制度も必要なのでは。

### ◆市長の発言

循環器の医者については医大などへお願いをしているが、現実的に医者自体が不足状態であり、医者がいないのであれば、せめて搬送のための道路整備が必要だということで、今並行して関係機関に要望している。

### ■ 検討状況など 【担当…市立稚内病院庶務課】

- 現在の循環器科の診療は、札幌市内の病院から週2日、その後、その病院の働きかけもあって、今年5月には他の病院よりさらに週1日医師の派遣を受けて、週3日の診療を行っております。
- 今後は、上記2病院との連携強化により早期の医師常勤体制構築を模索していきます。

### 3. 計画停電について

#### ◆参加者からの意見等

○この地域は農家も多いので、計画停電が実施されればどういった対応をしなければいけないのか。

#### ◆市長の発言

○新聞などにも書かれているように、火力発電所が駄目になり、更に東北から融通される送電線も駄目となった場合に計画停電が実施されると想定しており、逆に今は冬の計画停電を心配している。北海道の特性を生かして風力や太陽光に早くからシフトしていればこうしたことにならなかったのでは残念に思う。

※「その後の検討状況等」は特になし

## 4. 震災瓦礫について

### ◆参加者からの意見等

- 市長の瓦礫の受け入れについては良かったと思っていたが、つい最近、漁網の関係で報道を見たがその後はどうなったのか。
- 今の噂の中だと市長が悪者になってしまうので正しい情報を周知すべき。
- 何故こんな北海道の遠いところまで運ぶ必要があるのか。

### ◆市長の発言

- 現在は、「被災地と話をして瓦礫を受け入れるなら受け入れて下さい」と言われている様な状況で、その辺が整理されるまでどうしようもない。
- 実際に被災地に赴きものすごい瓦礫の量を目にし、実際に放射線量も測ったが、稚内でも測定される数値である。放射能まで受け入れるつもりは無く、これまでの経験から安全とは言えるが、どこまで行っても人の不安を消すことは出来ない。
- 被災地の人は全国から瓦礫受け入れを拒否され自信を失っている様で、今は地元で処理しようとしている。
- 地元で処理施設を立てて雇用を生むという話もあるが、まち自体が機能しておらず先に進まないし、また東北独特の地形なども影響して広域処理の考えが出ている。何よりも被災地の人は早くもとの仕事に就くことを望み、それが本来の雇用の姿だろうと考えられる。
- 今は手の出しようが無いが、瓦礫が大丈夫であること、受け入れ等については整理したうえで説明しなくてはいけないと思っている。

※「その後の検討状況等」は特になし

## 5. 少子化問題と雇用対策について

### ◆参加者からの意見等

- 勇知においても子どもたちの人数が増えているようだが、少ないというのが実感としてある。稚内市内の人口は減少している傾向にあるが、今後どうしたら良いか市長の意見があればお聞きしたい。
- 今の若い人はお金がかかるから結婚を避けている部分もあり、やっぱりが雇用が一番大事だと考えられるが。

### ◆市長の発言

- 何年も前から少子化に対しては取り組んできたつもり(不妊治療助成、就園費等への補助、子供の医療無料期間の延長、市費教員の採用、小児科開業医誘致)で、環境は整いつつあるが実際には出生数は増えていない。また、若い人が結婚しなくなってきており、市町村がかつての仲人役を引き受けているような、今はそんなことも必要かと思わせるような時代だと思う。
- 稚内は多くの企業が有る訳ではないが、一次産業では後継者問題も抱えているながら、一方では働く場所が無いと言われている。また、感覚的に仕事を選び、職と人のミスマッチというものも存在している。ホワイトカラー志向の傾向があるが、それを変え、産業教育というか自分のまちで生きていくプライドみたいなものを教育していくことも必要なのではないか。

※「その後の検討状況等」は特になし



## 6. 新規就農について

### ◆参加者からの意見等

- 新規就農はほかの地域と同じようなことをしては駄目。
- 新しく農家を始めるとなれば本人も不安だし、周りも不安で、数年後にいなくなっていることだって少なくない。研修など就業させられる場を設けてはどうか。
- 具体的に市の農政窓口と話をする機会はない。
- 放牧して搾乳するのが夢だったのに、現実的には制度の型にはめられ、どうしようもない場合もある。何頭でも良いからやりたい人には支援をして、家族経営も大事にしていくことを踏まえ、支援体制も農協側と連携をとって進めていく必要がある。

### ◆市長の発言

- 9月議会に向けて新規就農の件はいろいろと検討している。よそに負けにくいぐらいのものをというつもりで取り組んでいる。皆さんのおっしゃる通りだと思うので、戻ったら確認をしたい。

### ■ 検討状況など 【担当 … 建設産業部・農政課】

- 従前より営農実習に対する支援の要望もあり、本年9月議会において、本市の新規就農支援に対する積極的な取組と就農を支える体制の充実により新規就農希望者を呼び込み、さらに新規就農者の早期の経営安定化を図るため営農実習生に対する奨励金制度を新設しました。内容としては、生活費のほか、実習先、住居の斡旋及び新規就農に対して支援するものです。
- 上記の奨励金制度新設の検討を進めるにあたり、関係機関との協議が順調に進まなかった部分もありましたが、最終的に稚内市、稚内農協、北宗谷農協、普及センター、農業委員会、農業士会で構成する稚内市担い手育成総合支援協議会が主体となり、推進することといたしました。
- これまでも、毎年、各地区開発期成会総会等の機会に、農政についての意見交換を行っており、また、酪農ヘルパー組合や中山間集落総会等においても、農業者の方の声を聴く機会があるので、そのような機会を活用しながら、個々の要望に応えられるよう関係機関と連携をとりながら、担い手支援を進めて行きたいと考えております。

## 7. こうほねの家周辺の海岸侵食の状況について

### ◆参加者からの意見等

○こうほねの家は観光地としてにぎわっているが、沼周辺の海岸の砂の侵食が激しく進んでいる。侵食が進むと貴重な動植物に影響があるし、民地も奪われる。牧草地や道路も奪われていく。これまで国や道など関係機関で整備を進めており、対策委員会で検討してきたが、予算の都合もあり年月がかかる状況。えぐれた砂は抜海漁港に入っていく。現状を市長にも知ってほしい。

### ◆市長の発言

○国道だと国道保全の対策があるが、こちらは道道なので北海道の予算の問題もあると思う。所管に確認する。

### ■ 検討状況など 【担当…建設産業部・観光交流課】

- こうほね沼に近接する海岸の砂の侵食対策は、北海道の実施事業により平成9年度に護岸設置、平成20年度に護岸補強工事を既の実施しておりますが、護岸の両側は大きく侵食され、こうほね沼の保全はもとより、道々稚内天塩線にまで迫ろうとしています。
- 当市では、これまでも海岸侵食対策の要望活動を実施してきておりますが、平成22年度に北海道宗谷総合振興局により、民間有識者と行政で構成する「稚内海岸勇知地区侵食対策検討会」が設置され、対応策を検討した結果、護岸を北側30m、南側215mに延長し、養浜、盛土を行う対策工事を早急に着手すべきという結論を得て、今年度から10年間に渡り施工されることとなっております。

## 8. JR 勇知駅について

### ◆参加者からの意見等

観光客などが JR を利用して勇知に訪れることも良くあり、その際には「駅が汚い」との話もある。駅やその周辺についても整備をお願いしたい。

### ◆市長の発言

管理については JR で行っている。今年になって、地域の方からも言われて JR とも話をしている。財政的には 1 年に 1 つの駅しか改修できないと言われており、一応要望はしているところ。市でも処置している部分は後で確認をする。

### ■ 検討状況など 【担当…政策調整部・市民協働課】

○勇知駅については、地域からの要望もあり、改修について JR 宗谷北線運輸営業所（上川管内和寒町以北の地域を所管）に本市として要望を提出する予定です。しかし、JR 稚内駅に事前に確認したところ、駅舎の改修については予算の関係もあり、年間 1 駅程度の整備しかできない旨の話を受けています。市としては、整備が実施されるまで要望を継続していきます。ただし、現在のままで良いとは考えていませんので、今後も地域と協力しながら簡易な整備を行うことを地域と確認をしています。なお、周辺整備については、勇知駅を管理している稚内駅に話をしており、稚内駅の方で補修は実施する旨の回答は得ておりますが、地域の皆さんにおかれましても美観保全等のご協力をお願いしたいと思います。

## 9. 防災について

### ◆参加者からの意見等

- 食糧の備蓄はどここの避難所でもある程度必要かと考えられる。
- 避難所に廃校が指定されているが、実際には水道やトイレも使えないのに誰が行くのか。(例えば更喜苫内は町内会館の方が良い)
- 海拔何メートルの表示は、どういう基準で付いているのか。この辺りには付いていない。

### ◆市長の発言

- 備蓄する場所を何カ所か決めて、何かあればそこから運ぶような対応をとることで考えている。避難場所としての廃校の実態や、海拔表示については戻ったら確認する。

### ■ 検討状況など 【担当課 … 総務部・防災安全課】

- 食糧の備蓄については、出来る限り家庭内にある食糧を持ち寄ってもらい対応してもらうよう講習会等においても周知しており、避難所に食糧を備蓄する考えはもっておりません。又、食糧以外の寝具や毛布等の備蓄についても同様で、避難所に備蓄するといったことは考えておりませんが、今後備蓄品については、市内の拠点となる数か所の避難所に分散する予定であります。また、地域独自の判断で使用していない毛布等を持ち寄り、避難所に準備しておくことは必要ではないかと考えております。
- 廃校を避難所に指定していることについては、一時的な避難場所として指定しているものであり、最低限の安全が確保できる場所を指定するという考えで進めております。
- 標高表示看板(海拔表示)については、津波災害への防災意識を高めてもらうことや注意喚起のため、津波災害の危険がある沿岸部の公共施設を中心に設置しております。(質問のあった)上勇知地区につきましては、津波災害の心配がないと予想されることから、今のところ設置の予定はありません。